

# キリスト教保育

年主題

つながって

～今、わたしを生きる～

礼拝のお話

坂田圭子

巻頭言

命の価値を再認識する時代

松原宏樹

論説

多様性を尊重する保育その2

日浦直美



2022 NOV.

11

あなたがたはキリストのからだであり、ひとりびとりはその肢体である。

口語訳聖書・コリント人への第一の手紙12章27

からだの特質に先ず一体性（統一性）があります。頭（かしら）の指示に従って肢体は一致して働きます。私たちの園もキリストを頭（かしら）として、神のみこころに基づく建学の精神に従って保育の営みに励みます。使徒言行録にみられる初代教会の成長の秘訣は「心を合わせて」（1章14）、「心を一つにして」（2章46）にありました。私たちも心を一つにして力を出し合う時、事は起こり進展します。私たちは何はともあれ保育集団であり、日々迎える相手は幼子です。何事をするにも力を出し合うことなしに保育者の業を果たすことはできません。

からだの特質にもう一つ、多様性があります。肢体は皆その働きは異なりますが、否、異なるが故の一つの目的に向かってその分を尽くし合う時、美しい調和（ハーモニー）が生まれます。紀元前5世紀のメネニウス・アグリッパのお話があります。「胃袋以外の体の部分が呟いた。『自分たちは一生懸命働いているのに、胃袋は、うまいものをもらうだけで何もしないと、不公平を口にした』そこで手は口に食べ物を運ぶのをやめ、口もこれを受け付けず、歯も噛むことを拒んだのだ。ところが胃袋を困らせるためにしたことが、かえって自分たちを衰弱させる羽目になってしまった。やがて胃袋にも役目があり、食べ物を消化して血液を体内に送り出すエネルギーを造ってくれていることを発見し、ボイコットを中止した」（要旨）。

教会と私たちの園はイコールではありませんが、キリストを仰ぐ施設として相通じるものがあるのです。教会はいろいろな人の集まりですが、違いを認め尊びながら、神に愛され赦されている恵みを共有しつつ、神と人に仕えて生きる者の集まりです。からだは、足、手、耳、目、それぞれ違っていても、いや違っていても故にお互いを必要とするように、私たちの保育者集団もこの心がとても大切に思います。

私たちも自分の分を果たしながらも、同僚の欠けを補い、また自らの欠けも補ってもらい、祈り、祈られる関係こそ不可欠です。先ず私たち保育者の和が不可欠に思われます。幼子は大人をみて、保育者をみて育つのですから。

役割分担をし、力を出し合って遊ぶ子どもたちの目は生き生きと輝いています。「さあ、わたしたちの子どもらに生きようではないか」（フレール）

吉井秀夫・執筆 当時・鹿屋キリスト教会牧師 信愛幼稚園園長  
1987年『キリスト教保育』誌1月号より

# キリスト教保育

第644号11月号



年主題

## つながって

～今、わたしを生きる～

幼子とともにキリストへ

目次

〈巻頭言〉

命の価値を再認識する時代

松原宏樹

〈論説〉

多様性を尊重する保育(その2)

—保育・教育実践上の具体的課題—

日浦直美

〈小論〉園から学校へ橋を架ける(2)

永倉みゆき

聖書にきく・お話 篠田真紀子

### 【カリキュラム】

11月 月のねがい

心にとめて 児玉純子

0・1・2歳児 共愛学園

実践からの学び 矢野キエ

心にとめて 鈴木直江

3・4・5歳児 愛隣幼稚園

実践からの学び 松浦浩樹

絵本のとびら 坂本真貴子

〈連載〉キリスト教保育Q&A

塩谷直也

〈連載〉領域「表現」とは

尾根秀樹

礼拝のお話 坂田圭子

目福口福耳福 黒田恵美子

図書紹介 千葉明子 相本寛子

風 吉岡康子 編集子 赤木敏之

連盟だより

41

42

44

48

57

58

59

60

21 22 24 30 32 34 40



表紙絵  
カット

田中楨子  
長野祥三  
中畝治子  
金井ユリ

長縄えいこ  
松成真理子